

# JPALS 活用術 メリット等の経験談

JAPAN PHARMACEUTICAL ASSOCIATION LIFELONG LEARNING SUPPORT SYSTEM

JPALSが始まってもうすぐ3年になりますが、今でもJPALSは面倒！どんないいことがあるの？との声を聞くことがあります。そこで、今月から実際にJPALSを利用している方の書き方のコツや活用術を紹介していきたいと思います。ご参考になれば幸いです。

## My DIメモの勧め

薬物治療が進化し、日々新しい薬が発売される中で皆様も常日頃勉強していることと思いますが、その記録はどのようにしているのでしょうか？私自身は、以前はメーカーの勉強会のたびにいただくメモ用紙や薬のパフレットに書き込み、あちこちバラバラになっていました。JPALSを始めてからは必ず書き込むようにしており、勉強した内容を整理できるようになりました。例えば、これはある時の製品説明会のメモです。

テーマ	イクスタンジカプセル製品説明会
学習時間	00時間0分
実施年月日	2014/06/13
会場	〇〇薬局
セミナー主催	アステラス製薬株式会社
セミナー概要	<p>去勢抵抗性前立腺癌の治療 イクスタンジカプセルの作用、副作用、患者指導など</p> <p>去勢抵抗性前立腺癌(CRPC)の定義 前立腺癌取扱い規約： 外科的去勢、薬物による去勢状態で、かつ血清テストステロンが50 ng/dL未満であるにも関わらず病勢の増悪、PSAの上昇をみた場合 (抗アンドロゲン剤投与の有無は問わない)</p> <p>進行性前立腺癌に対する一次アンドロゲン遮断療法として、日本ではMAE療法(maximum androgen blockade:アンドロゲン除去療法と抗アンドロゲン剤の併用療法)が最も多く行われる。</p> <p>イクスタンジカプセルの作用機序 ・細胞質内においてアンドロゲン受容体(AR)と結合しアンドロゲンの結合を阻害する。 ・ARと結合した複合体の核移行を阻害する。</p>

	<p>・食事の影響は少ない。腎障害による用量調節は必要ないが、試験では朝に服用していた←朝なら飲み忘れたら昼でもいいと言えるが、夜だと飲み忘れたらそのまま寝てしまうため</p> <p>・1日4C服用。4C≒12500円</p> <p>・化学療法施行後に病勢進行が認められた去勢抵抗性前立腺癌において、全生存期間を平均で約5ヶ月間延長させた。</p> <p>↑日本では化学療法は積極的に行っていないので、もう少し成績悪いかも</p> <p>Q&amp;A                  Q:一包化は？                  A:出来ると思うが推奨できない。外のカプセルを触っても被爆なし                  Q:透析で除去されるか？                  A:除去されない                  Q:1日2回に分けて飲むことは？                  A:1日2回はI相/II相試験を含め検討していない。効果、副作用がどうなるか薬物動態からの推察も難しい</p>
<p><b>学習内容で実践活用が出来そうな例 学習が実践活用出来た内容【自由記載】</b></p>	<p>・イクスタンジカプセルの作用機序の理解                  ・患者服薬指導(副作用、飲み忘れた時の対処法など)                  ・相互作用の確認(痙攣の閾値を低下させる薬剤など)</p>
<p><b>学習目標達成できなかった項目 今後の学習が必要な項目【自由記載】</b></p>	<p>前立腺癌治療薬におけるホルモン療法、化学療法について詳しく！</p>

ある時、近隣の病院からイクスタンジカプセル160mg分2(朝夕食後)と書かれた処方せんが来ました。適応用法は160mg分1ですので疑義をしたところ、医師は「大きく飲みづらいので分2にした。その方が副作用も少なくなるのではないかと考えた」とのことでした。以前説明会で聞いていたので、JPALSのメモを見ながら消失半減期や臨床試験デザインの話をしたところ納得されて適応用法に変更となりました。説明会の内容をしっかり覚えていれば良いのですが、なかなかそうもいきません。紙のメモだと探すのに大変ですが、JPALSに書き込んでおくと呼び出せる端末さえ近くにあれば非常に便利だと感じています。下のはイメージですが、例えばこんな使い方でもおもしろいと思います。

<p>その他</p>	<p>2014/11/13</p>	<p><u>(自分用)アテディオ配合錠製品説明会</u></p>
	<p>2014/11/11</p>	<p><u>(自分用)アブルウェイ錠製品説明会</u></p>
	<p>2014/11/09</p>	<p><u>(自分用)ダクルインザ、スンペプラ製品説明会</u></p>
	<p>2014/11/07</p>	<p><u>(自分用)ザルティア錠製品説明会</u></p>
	<p>2014/11/05</p>	<p><u>(自分用)イクスタンジカプセル製品説明会</u></p>
<p>≫ その他の実践記録を見る</p>		

JPALSでMy DIメモを作ると、きっとどんどん情報を増やしていきたくになりますので試してみてください。

# JPALS クリニカルラダーレベル5 更新に向けてのご案内

「過渡的認定」を申請され、現在  
クリニカルラダーレベル5の方へ  
まもなく更新時期です!!

「過渡的認定」を申請され、現在クリニカルラダー(CL)レベル5になられている方へのお知らせです。CLレベル5の認定期間は、平成27年3月31日を以て期限を迎えます。

JPALSは、学習したことを記録し、評価を行い、学習計画へつなげていくことを一番の目的としており、実践記録を本会へご提出いただくことを更新の要件としております。

つきましては、実践記録をご提出いただき、CLレベル5の更新(昇格、維持)に向け、ご準備をお願いいたします。

なお、当初の予定とは異なり、平成27年3～4月にかけて実施予定でありました、CLレベル6へ昇格するためのテストは延期いたします。詳細は下枠内、別添の参考資料をご確認ください。

## 【CLレベル5の更新】

認定期間の平成24年4月1日～27年3月31日の間に、トータルで実践記録18本以上を日本薬剤師会に提出していること。(年度ごとに6本以上等の提出本数の縛りはありません)

### ◆実践記録18本以上のご提出要件を満たされた方：

平成27年3～4月にかけて、システム上で更新手続き(申請および申請料のお支払)をしていただきます。過渡的認定申請時と同等の費用が必要となります。

日薬会員：5,000円/税別、一般：20,000円/税別

更新手続きを期日(詳細未定)までに完了されない場合、自動的にCLレベル4に降格となります。

### ◆実践記録18本以上のご提出がない場合、自動的にCLレベル4に降格となります。

降格された場合は、年度内に実践記録6本以上を提出の上、年度末に実施するCLレベル5への昇格テストを受験し合格すればCLレベル5に昇格できます。

## 【CLレベル5の更新後】

上記の更新手続きを終えた方は、CLレベル6への昇格にチャレンジいただけます。

「(仮称)総合薬剤師試験」を受験し、合格した方をCLレベル6とする予定です。詳細は、別添の参考資料をご確認ください。

なお、CLレベル6に昇格するための受験は義務ではありません。CLレベル5の維持、更新の継続(3年更新：実践記録18本以上提出)という選択肢もあります。CLレベル5を維持していればいつでも受験(試験実施は年1回の予定)できますので、3年ごとの更新は必ず行ってください。なお、更新ごとに前述と同等の費用が必要となります。

## 【CLレベル6への昇格後】

CLレベル6に昇格した後も、更新の継続(3年更新：実践記録18本以上提出)をお願いいたします。更新ごとに前述と同等の費用が必要となります。

(平成26年11月現在)

本件に関する問い合わせ先：日本薬剤師会 JPALS サポート係 jpals-support@nichiyaku.or.jp

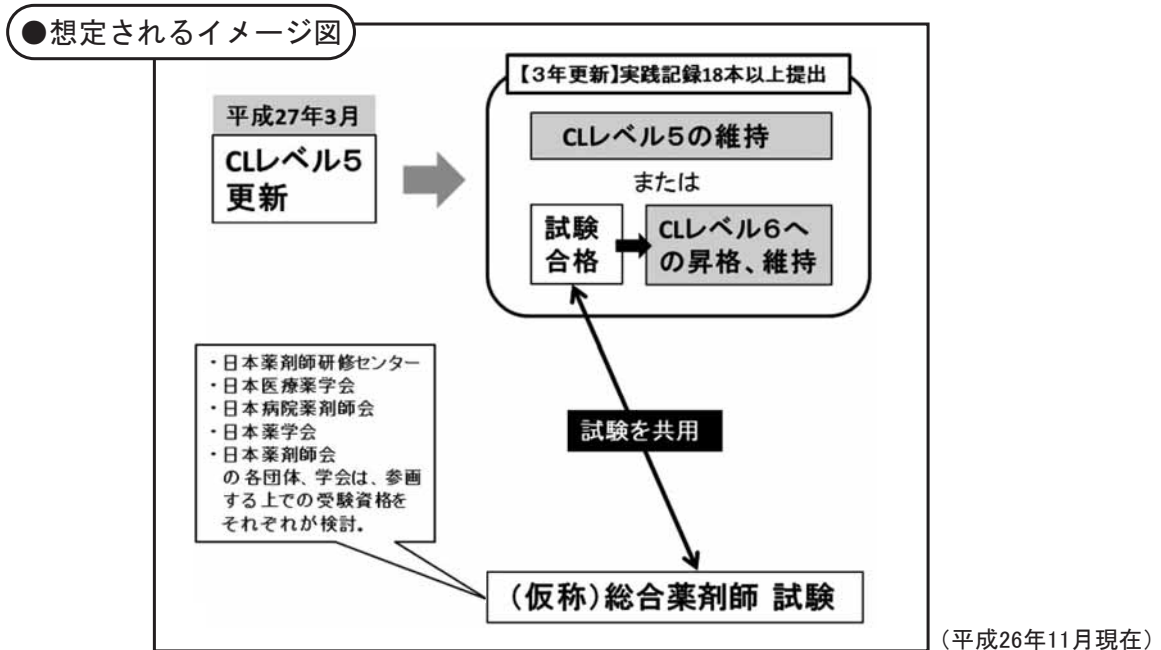
【参考資料】

《薬学関係5団体での連携による共通の評価の仕組みの検討経過について》

平成24年12月より、日本薬剤師研修センターが中心となり、日本病院薬剤師会、日本医療薬学会、日本薬学会、日本薬剤師会の全5団体が共同で、新たな共通の評価の仕組みを構築することに合意が得られ、検討が開始されました。その後の検討はワーキンググループ(以下WG)に引き継がれ、平成25年5月から26年1月にかけて5回行われたWGは、第3回目から厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)である、平成25年度「6年制薬剤師の輩出を踏まえた薬剤師の生涯学習プログラムに関する研究」の分担研究「新たな薬剤師プログラムの構築に関する研究」として進められました。5回のWG開催を経て平成26年3月に提出された研究報告書では、「総合薬剤師とでもいうべき薬剤業務全般に精通し、かつ他の薬剤師に対して支援等を行える薬剤師」を評価する共通の仕組みを構築すること、共同で作る評価の仕組みにおける試験の受験資格については、実務経験年数は統一する方向とし、それ以外は各団体が設けている認定制度等の状況を勘案し各団体がそれぞれ定めること、などについて提言されており、現在、これをベースに5団体で実現に向けた協議が継続されています。

《CLレベル5以降について》

前述の通り、5団体が共同で構築する共通の評価の仕組みへの参画要件は各団体がそれぞれ定める方向で検討されているため、JPALSはCLレベル5で参画する予定です。それに伴い、平成27年3～4月に予定していたCLレベル6への昇格テストは延期し、5団体にて実施を検討中の「(仮称)総合薬剤師認定試験」(実施時期、実施団体、実施方法等は決まり次第公表。)を共用する方向で調整いたします。試験の受験資格はCLレベル5を維持、更新できた方に付与し、合格者はCLレベル6とする予定です。



JPALS CL5 プレチェック・実践記録提出状況 平成26年10月20日現在

都道府県薬剤師会	CL5人数(人)	プレチェック数			実践記録(ポートフォリオ)提出数		
		383(完了)(人)	382~1(人)	0(人)	18本以上(人)	1~17本(人)	0本(人)
北海道	862	862	0	0	97	287	478
全国	17018	17018	0	0	1481	5668	9869